HOJITSU

ペレスター　HPS-100
使用ガイドブック

この度は本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このガイドブックでは、本製品を正しく安全にご利用していただくため「日常の使用方法」を主に紹介しております。

取扱説明書と合わせてお読みください。

目次

» 1、着火作業・・・・P2

» 2、消火作業の注意点・・・・P4

» 3、タイマー設定・・・・P5

» 4、エアダンパー調整・・・・P7

» 5、日常のお手入れ・・・・P9

» 6、ユーザー様からのよくある質問・・・・P11

» 7、シーズンオフ時の保管方法・・・・P13

1、着火作業

着火前確認

(1)ロストルの灰掃除

着火前に付属の灰掻き出し棒で掃除する。
掃除を怠ると、着火失敗の原因となります。
着火失敗になると液晶に
「テイオンエラー」と表示されます。
また、ロストルに灰が溜まった状態では充分な吸気がとれず、燃焼不良などの原因となります。
燃焼不良が起きると、ロストルの中の燃料が燃えきらず、ロストル内にペレットが溜まり、失火します。

・ロストル掃除

(2)エアダンパーを全開にする

着火前に必ず、エアダンパー
（正面から見て本体左側面にある）
を矢印方向に全開まで引く。
エアダンパーが開いていないと着火失敗の原因となります。
着火失敗を起こすと液晶に
「テイオンエラー」と表示されます。

・ダンパーの確認

(3)ロストルのブラケットのずれ

灰掃除などをした後に ロストルを戻す際、

ロストルのブラケットがしっかりはまっていないと、ヒーターからの熱がロストル内のペレット燃料に当たらず、着火失敗の原因となります。

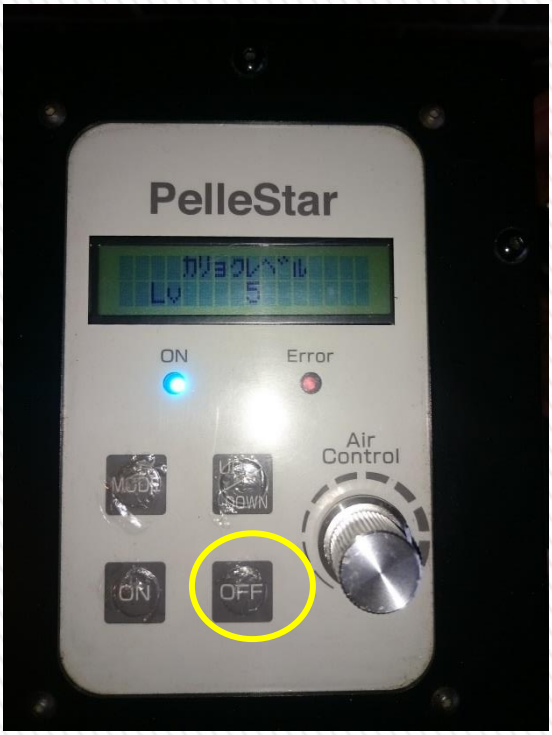
悪い例・・・ロストルのブラケットと、燃焼炉床面との間に隙間がある。

良い例・・・燃焼炉床面のスリットに、ブラケットがしっかりはまっている。

2、消火作業

消火作業の注意点

消火作業は、操作パネル内の「OFF」スイッチを押すことで
消火作業が始まります。
「OFF」スイッチを押すと　燃料の供給が止まりますが
すぐに消火されるわけではありません。
そのため、弊社の製品では「OFF」スイッチを押した後、
40分間（初期設定）は排気ファンが動作しております。
（排気ガスを室外に出す、ストーブ本体温度を下げるため）
この間に、**必ず主電源を切らないようにしてください。**
ストーブ本体の異常加熱や、室内に排気ガスが充満するなど、**重大な事故につながる恐れがあります。**
万が一主電源を切ってしまった場合はすぐに電源を投入し、「ONボタン」を押し排気ファンを回してください。（メンテナンスモードによる排気ファン単独運転でも可・・・取扱説明書P19参照）



操作パネル
OFFスイッチ

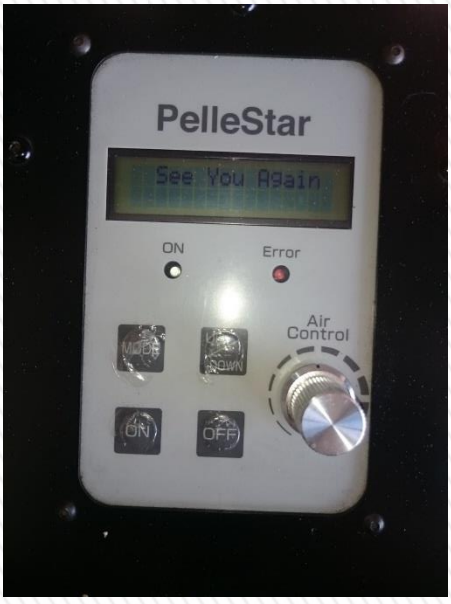
主電源スイッチ
（本体背面に位置する）

3、タイマー設定

(1)着火タイマー(オメザメタイマー)

ストーブ停止中のみ実行可能

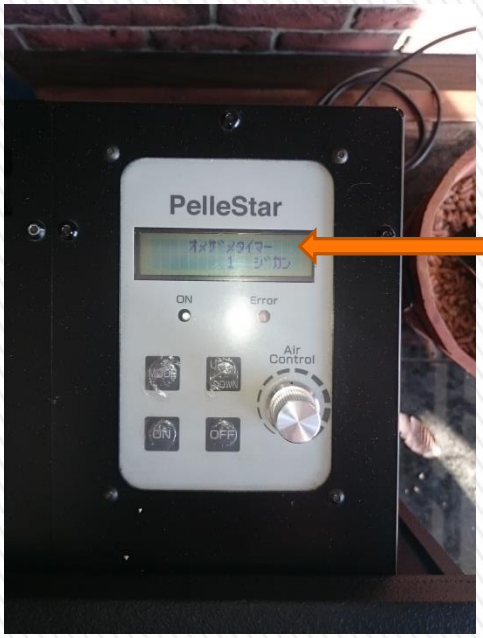
主電源投入時



運転OFF後

上記のタイミングでUP/DOWNボタンを押すとオメザメタイマーの設定画面に入ります。

UP/DOWNボタンを押してご希望の時間にセットしてください。

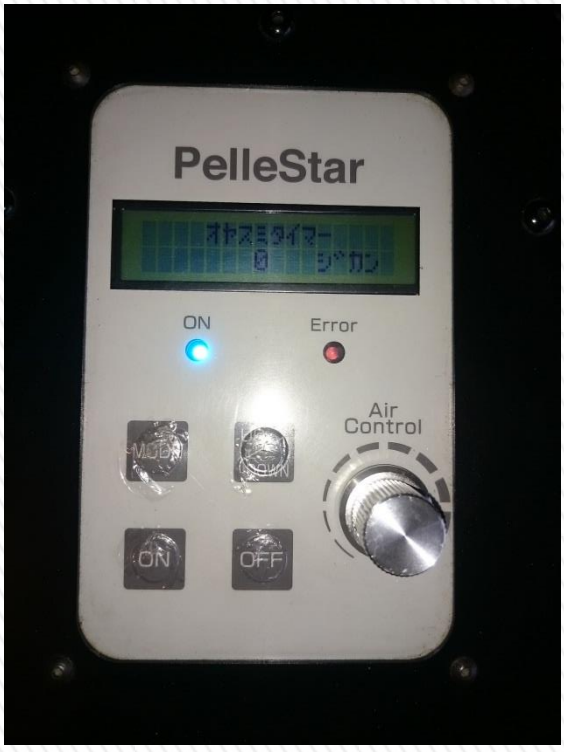


セット画面

(2)消火タイマー(オヤスミタイマー)

ストーブ運転中のみ実行可能

燃焼中の通常の画面で
MODEボタンを一度押す。



オヤスミタイマーと表示され、
ご希望の時間にUP/DOWNボタンでセットする。

(3)タイマー機能の特徴

オメザメタイマーとオヤスミタイマーを同時にセットする事は出来ません。

運転時に「オヤスミタイマー」、待機時に「オメザメタイマー」を設定出来る様になっております。

4、エアダンパー調整

(1)エアダンパーとは

エアダンパーは、給排気量を調節する際に使います。

写真1の様に開くと給排気量が多くなり、写真2の様に閉じると給排気量が少なくなる。

(2)エアダンパーを調節するタイミング

・「着火、消火」の際に全開にする(写真1)

・火力レベルに応じてエアダンパーを開閉する。

目安としてはカリョクレベル3～5の時には全開で(写真1)、カリョクレベル1の時には側面と連なるくらいまで閉める。

(温度、煙突の高さなどで変化があるため、あくまで目安として。実際の燃焼を確認しながら行ってください)

写真1

写真2

（3）エアダンパーの調整ミスで起こるトラブル

・着火失敗

着火時にエアダンパーを全開にしていないと着火に失敗することがあります。

普段全開で使用していても、掃除などのきっかけで、エアダンパーを閉じてしまう事があります。

着火前にご確認ください。

・失火

主に着火時に発生する症状です。

初期燃料を投入後の着火待機時間にロストル内の燃料が燃え尽きてしまい、火が消えてしまう事を「失火」といいます。

パラメータ設定で対応できます。

・9番の初期の強制燃料投入時間を増やす

・11番の着火の待機時間を短くする

通常運転中に頻繁に起こる場合はエアダンパーの調整で対応します。

・ロストルに燃料が溢れる程溜まる

通常運転中に、エアダンパーを閉じ気味で長時間使用するとロストル内の燃料が燃えていかず、燃料が溜まってしまう事があります。

一度消火作業に入り、消火後に燃料を付属の灰掻き出し棒で燃焼炉内へ除けて再着火してください。

5、日常のお手入れ

注意

・作業は必ず本体の熱が残っていない状態で行ってください

・使用燃料、設置、使い方などで灰の量が変わりますので目安としてご利用ください

1日点検

・ロストルの掃除

付属の灰掻き出し棒でロストルをお掃除してください

ロストルを外し、灰受け皿につながる穴に付属の刷毛で落としてください。

・耐熱ガラスの掃除

耐熱ガラスの汚れを湿らせた雑巾などで拭き取ってください。

1週間点検

・灰受け皿の灰処理

灰受け皿に溜まった灰を処理してください。

使用頻度や燃料により異なるので、1週間経過していなくても定期的にご確認ください。

(3)1ヵ月点検

・バッフルプレートの掃除

燃焼炉内上部にある2枚の鉄板をバッフルプレートと呼びます。

バッフルプレートを取り外して溜まった灰を処理してください。

外し方は、取扱説明書、又はペレスターのホームページの「お客様サポートのページにyoutube動画がありますのでそちらをご確認ください。

(注1)バッフルプレートの掃除をする時には灰が舞う事がありますのでご注意ください。

(注2)バッフルプレートが熱で変形して外しにくい場合があります。

6、ユーザー様からのよくある質問

Q、着火が失敗する

A、本誌2，3ページをご確認ください。それでも着火しない場合は購入先の販売店にご相談ください。

（部品の交換、又は使用燃料、設置環境、パラメータの設定に問題がある場合があります。）

Q、使用できる燃料は？

A、ホワイトペレット、全木ペレットが使用できます。

径はφ6～φ7が使用できます。

バークペレット、粉が極端に多いペレット、指で砕けない程固い燃料などはトラブルの原因となります。

購入先の販売店にご相談ください。

Q、液晶にテイオンエラーと表示された。

A、ONから既定の時間内（初期設定・・15分）に既定の温度（初期設定・・40℃）に達しないと着火が失敗したとみなしてテイオンエラーと表示され、消火作業に入ります。

外気温度が低い地域などは設定の変更が必要になる場合があります。

購入先の販売店にご相談ください。

Q、火力レベル1で使用しても熱い。燃料の出る量を減らしたい。

A、パラメータ設定4番で変更できます。

Q、パラメータ設定とは？

A、ストーブの各種パラメータの設定が出来ます。

主に、着火性、各種センサー、燃料の送り量などを調整します。

基本的には初期設定で問題ないですが、使用燃料、設置環境にあわせて設定を変更する事があります。

（注意）設定変更の際には購入先の販売店にご相談ください。

予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。

パラメータ設定項目（赤字は初期設定です）

1:ヒーター点灯時間	（7分～13分まで2分置きに設定できます。0はヒーターOFF）11
2:低温センサ感知時間	（ｽﾀｰﾄより、15分後か20分後に低温センサを有効にします。）15
3:ヒーター設定温度	（既定の温度に達するとヒーターが切れます。 40℃・50℃ ・60℃・190℃）
4:オーガモーター倍率	（燃料送り料を調節します。 1～7倍まで）3
5:排気ファン停止時間	（OFFスイッチ後に排気ファン動作時間を設定します。 30分・40分・50分）
6:室内ファン停止温度	（既定の温度より下回ると停止します。 40℃～60℃）50
7:室内ファンON温度	（既定の温度を上回ると動作します。 30℃ ～ 60℃）40
8:室内ファン強制温度	（既定の温度を上回ると室内ファンが最大で動きます。130℃～180℃）150
9:初期の強制燃料時間	（スタートから、既定の時間まで燃料を投入しつつづけます1分～5分）3
10:低温センサ感知温度	（既定の温度を下回ると、ストーブが停止します。 30℃・40℃・50℃）40
11:着火待機時間	（9の初期燃料投入より着火の為の待機する時間。1～9分）4

Q、シーズンオフ時のメンテナンスはどうすればいい？

A、なるべく購入した販売店に依頼して行なってください。

ご自身で行う方は購入先の販売店にご相談ください

7、ストーブオフシーズン時の保管方法

・ストーブの使い終わりの時期にシーズンオフメンテナンスを行ってください。
（内容は本誌にはのっておりません）

・コンセントは必ず抜いてください
シーズンオフ時に雷が入りストーブが故障したケースがあります。

・排気管の排気部分を虫や小動物が入らないように処理してください。
過去に排気管の排気部分に鳥が侵入し巣を作ってしまった事があります。
（シーズン初めには必ず元に戻してください。排気口が塞がった状態での燃焼は非常に危険です）